

概

況

概 況

1 取扱高

(1) 総取扱高

平成3年中における東京都中央卸売市場花き部の開場日数は北足立市場302日、大田市場255日で、前年より北足立市場では3日、大田市場では170日多かった。総取扱実績は数量は、部類によって単位が違うので算出できないが、金額は431億3439万3千円を示した。この金額を前年と比較すると95.7%(210億9321万4千円)の増加となった。また、1日当たりの取扱高についてみると金額は、1億4282万9千円で93.8%(6911万3千円)の増加という実績を示した。

(2) 部別取扱高

①切花 総取扱数量は3億9444万7千本、金額は287億6915万円となり、前年と比べると数量は87.2%(1億8375万5千本)、金額は95%(140億2027万9千円)の増加となった。

②切葉 総取扱数量は2775万9千枚、金額は8億3095万9千円となり、前年と比べると数量は89%(1307万7千枚)金額は84.6%(3億8084万9千円)の増加となった。

③切枝 総取扱数量は840万4千束、金額は21億8071万9千円となり、前年と比べると数量は21.8%(150万5千束)金額は52.9%(7億5536万9千円)の増加となった。

④鉢花 総取扱数量は1161万4千鉢、金額は38億9148万円となり、前年と比べると数量は145.3%(688万鉢)金額は82.6%(17億6057万1千円)の増加となった。

⑤らん鉢 総取扱数量は100万4千鉢、金額は24億9678万3千円となり、前年と比べると数量は100%(50万2千鉢)金額は85.7%(11億5212万3千円)の増加となった。

⑥観葉植物 総取扱数量は493万6千鉢、金額は36億5976万9千円となり、前年と比べると数量は159.2%(303万2千鉢)、金額は181.3%(23億5854万3千円)の増加となった。

⑦観賞樹 総取扱数量は130万6千鉢、金額は8億2597万2千円となり、前年と比べると数量は115.4%(70万鉢)、金額は104%(4億2106万5千円)の増加となった。

⑧苗物 総取扱数量は28万8千箱、金額は3億2770万9千円となり前年と比べると数量は99.6%(14万4千箱)、金額は133.8%(1億8752万8千円)の増加となった。

⑨その他花き類 総取扱数量は11万9千箱、金額は1億5185万円となり、前年と比べると数量は3.2%(4千箱)、金額は59.9%(5688万6千円)の増加となった。

(3) 市場別取扱高

①北足立市場

総取扱金額は、132億5468万5千円で前年と比べると6.4%(7億9308万5千円)増加した。類別にみると切花の数量は1億3588万1千本で前年比1.8%(240万8千本)の減少、金額は92億4304万1千円で前年比4.6%(4億491万8千円)の増加となった。平均価格は68円。切葉の数量は968万1千枚で前年比0.4%(4万2千枚)、金額は2億8995万8千円で前年比1.1%(321万8千円)で、共に増加した。平均価格は30円。切枝の数量は、405万8千束で前年比7%(26万6千束)の増加、金額は7億9613万9千円で前年比5%(4159万1千円)の減少となった。平均価格は196円。鉢花の数量は293万8千鉢で前年比16.3%(41万2千鉢)、金額は11億4991万4千円で前年比17.4%(1億7030万2千円)で、共に増加した。平均価格は391円。らん鉢の数量は29万4千鉢で前年比19.6%(4万8千鉢)、金額は6億5622万5千円で前年比23.1%(1億2327万7千円)で、共に増加した。平均価格は2233円。観葉植物の数量は100万2千鉢で前年比2.5%(2万4千鉢)金額は7億3244万6千円で前年比12.1%(7897万8千円)で、共に増加した。平均価格は731円。観賞樹の数量は39万7千鉢で前年比20.1%(6万7千鉢)金額は2億3514万4千円で前年比(3575万5千円)で、共に増加した。平均価格は592円。苗物の数量は14万箱で前年比7.6%(1万箱)、金額は1億2723万8千円で前年比7.9%(927万7千円)で、共に増加した。平均価格は910円。その他の花き類の数量は9万箱で前年比8.9%(7千箱)、金額は2458万円で前年比57.3%(895万2千円)で、共に増加した。平均価格は274円。

②大田市場

総取扱金額は、298億7970万8千円で前年比212%(203億12万8千円)の増加となった。類別にみると切花の数量は2億5856万6千本で前年比257.1%(1億8616万3千本)、金額は195億2610万9千円で前年比230.3%(136億1536万1千円)で、共に増加した。平均価格は76円。切葉の数量は1807万8千枚で前年比258.4%(1303万4千枚)、金額は5億4100万2千円で前年比231.1%(3億7763万1千円)で、共に増加した。平均価格は30円。切枝の数量は434万6千束で前年比40%(123万9千束)、金額は13億8458万円で前年比135.6%(7億9696万円)で、共に増加した。平均価格は319円。鉢花の数量は867万7千鉢で前年比292.7%(646万7千鉢)、金額は27億4156万5千円で前年比138.1%(15億9026万9千円)で、共に増加した。平均価格は316円。らん鉢の数量は71万鉢で前年比177.3%(45万4千鉢)、金額は18億4055万8千円で前年比126.8%(10億2884万6千円)で、共に増加した。平均価格は2591円。観葉植物の数量は393万4千鉢で前年比324.6%(300万8千鉢)、金額は2

9億2732万4千円で前年比351.9%(22億7956万6千円)で、共に増加した。平均価格は744円。観賞樹の数量は90万9千鉢で前年比229.7%(63万3千鉢)、金額は5億9082万7千円で前年比187.5%(3億8531万円)で、共に増加した。平均価格は650円。苗物の数量は14万8千箱で前年比928.8%(13万4千箱)、金額は2億47万1千円で前年比802.2%(1億7825万1千円)で、共に増加した。平均価格は1352円。その他花き類の数量は3万箱で前年比9%(3千箱)減少し、金額は1億2727万円で前年比60.4%(4793万4千円)の増加となった。平均価格は4287円。

(4) 卸売業者別取扱高

① 東京第一生花(株)

総取扱金額は、95億1862万円で前年比5.3%(4億7819万1千円)の増加となった。類別にみると、切花の数量は9990万7千本で前年比2.6%(266万8千本)の減少、金額は71億9092万4千円で前年比4.2%(2億9093万3千円)の増加となった。平均価格は72円。切葉の数量は629万5千枚で前年比2.1%(13万6千枚)、金額は1億9595万円で前年比1.5%(295万4千円)で、共に減少した。平均価格は31円。切枝の数量は298万4千束で前年比8.6%(23万6千束)の増加、金額は6億1773万円で前年比6.6%(4393万3千円)の減少となった。平均価格は207円。鉢花の数量は137万1千鉢で前年比2.7%(3万6千鉢)、金額は5億8185万7千円で前年比12.1%(6284万7千円)で共に増加した。平均価格は424円。らん鉢の数量は13万1千鉢で前年比37.2%(3万6千鉢)、金額は3億3183万9千円で前年比42.7%(9937万7千円)で、共に増加した。平均価格は2528円。観葉植物の数量は45万3千鉢で前年比1.6%(7千鉢)、金額は3億5626万8千円で前年比16%(4903万6千円)で、共に増加した。平均価格は786円。観賞樹の数量は21万5千鉢で前年比14.7%(2万8千鉢)、金額は1億4233万2千円で前年比17.2%(2086万9千円)で、共に増加した。平均価格は662円。苗物の数量は10万5千箱で前年比6.6%(6千箱)の増加、金額は7892万5千円で前年比8.3%(712万5千円)の減少となった。平均価格は755円。その他の花き類の数量は8万2千箱で前年比6%(5千箱)、金額は2279万6千円で前年比66.9%(914万円で)、共に増加した。平均価格は276円。

② 東京花き(株)

総取扱金額は、37億3606万4千円で前年比9.2%(3億1489万5千円)の増加となった。類別にみると切花の数量は3597万4千本で前年比0.7%(26万本)、金額は20億5211万7千円で前年比5.9%(1億1398万5千円)で、共に増加した。平均価格は57円。切葉の数量は338万6千枚で前年比5.6%(17万9千枚)、金額は9400万7千円で前年比7%(617万2千円)で、共に増加した。平均価格は28円。切枝の数量は107万5千束で前年比2.9%(3万1千束)、金額は1億7840万9千円で前年比1.3%(234万1千円)で、共に増加した。平均価格は166円。鉢花の数量は156万

6千鉢で前年比31.6%(37万6千鉢)、金額は5億6805万8千円で前年比23.3%(1億745万4千円)で、共に増加した。平均価格は363円。らん鉢の数量は16万3千鉢で前年比8.3%(1万3千鉢)、金額は3億2438万6千円で前年比8.0%(2389万9千円)で、共に増加した。平均価格は1996円。観葉植物の数量は54万8千鉢で前年比3.2%(1万7千鉢)、金額は3億7617万8千円で前年比8.6%(2994万2千円)で共に増加した。平均価格は686円。観賞樹の数量は18万2千鉢で前年比27.1%(3万9千鉢)、金額は9281万2千円で前年比19.1%(1488万6千円)で、共に増加した。平均価格は509円。苗物の数量は3万5千箱で前年比10.9%(3千箱)、金額は4831万3千円で前年比51.4%(1640万2千円)で、共に増加した。平均価格は1371円。その他花き類の数量は7千箱で前年比38.3%(2千箱)と増加し、金額は178万4千円で前年比9.5%(18万8千円)の減少となった。平均価格は250円。

③ 大田花き(株)

総取扱金額は、168億3929万8千円で前年比222.8%(116億2410万6千円)と大幅に増加した。類別にみると切花の数量は1億8458万本で前年比259.2%(1億3320万4千本)、金額は141億6378万3千円で前年比232.3%(99億258万円)で、共に増加した。平均価格は77円。切葉の数量は1158万3千枚で前年比263%(839万3千枚)、金額は3億3095万4千円で前年比239.3%(2億3340万円)で共に増加した。平均価格は29円。切枝の数量は302万9千束で前年比51.9%(103万5千束)、金額は7億8908万円で前年比136.1%(4億5494万円)で共に増加した。平均価格は261円。鉢花の数量は132万5千鉢で前年比358.4%(103万6千鉢)、金額は5億6797万1千円で前年比163%(3億5208万5千円)で共に増加した。平均価格は429円。らん鉢の数量は12万9千鉢で前年比245.4%(9万2千鉢)、金額は5億1418万3千円で前年比196.2%(3億4058万6千円)で、共に増加した。平均価格は3991円。観葉植物の数量は40万7千鉢で前年比410.9%(32万7千鉢)、金額は2億2940万3千円で前年比482.9%(1億9004万6千円)で、共に増加した。平均価格は564円。観賞樹の数量は11万7千鉢で前年比178.5%(7万5千鉢)、金額は8958万円で前年比182.9%(5791万8千円)で、共に増加した。平均価格は764円。苗物の数量は5万箱で前年比968.6%(4万5千箱)、金額は6381万1千円で前年比865.1%(5720万円)で、共に増加した。平均価格は1279円。その他の花き類の数量は1万3千箱で前年比47.4%(1万1千箱)の減少、金額は9053万3千円で前年比64.1%(3534万8千円)の増加となった。平均価格は7240円。

④ F A J(株)

総取扱金額は、130億4041万円で前年比198.8%(86億7602万2千円)の増加となった。類別にみると切花の数量は7398万6千本で前年比251.9%(5295万9千本)、金額は53億6232万6千円で前年比225.1%(37億1

278万1千円)で、共に増加した。平均価格は72円。切葉の数量は649万4千枚で前年比250.5%(464万1千枚)、金額は2億1004万8千円で前年比219.1%(1億4422万9千円)で、共に増加した。平均価格は32円。切枝の数量は131万7千束で前年比18.3%(20万4千束)、金額は5億9550万円で前年比134.9%(3億4202万円)で、共に増加した。平均価格は452円。鉢花の数量は735万1千鉢で前年比282.8%(543万1千鉢)、金額は21億7359万5千円で前年比132.4%(12億3818万4千円)で、共に増加した。平均価格は296円。らん鉢の数量は58万2千鉢で前年比165.7%(36万3千鉢)、金額は13億2637万5千円で前年比107.9%(6億8826万円で共に増加した。平均価格は2281円。観葉植物の数量は352万8千鉢で前年比316.5%(268万1千鉢)、金額は26億9792万1千円で前年比343.4%(20億8952万円)で、共に増加した。平均価格は765円。観賞樹の数量は79万2千鉢で前年比238.9%(55万8千鉢)、金額は5億124万7千円で前年比188.3%(3億2739万2千円)で、共に増加した。平均価格は633円。苗物の数量は9万8千箱で前年比909.7%(8万9千箱)の増加、金額は1億3666万円で前年比12.5%(194万9千円)の減少となった。平均価格は1388円。その他花き類の数量は1万7千箱で前年比93.7%(8千箱)金額は3673万7千円で前年比52.1%(1258万6千円)で、共に増加した。平均価格は2138円。

2 月別市況

1月

「切花類」

年末からの高値相場がそのまま初市相場等に影響したものの、「成人の日」需要をはじめ、全般的に堅調な取引で推移した。種類別では切花は入荷量減少のため強保合、切葉はレザーファンを初めとして順調な取引を展開し、切枝も同様に順調な取引を示した。しかしながら、らん類は大量の出荷により、例年に比べてやや安値の取引に終始した。輪菊は前月に比べ入荷減であり相場は軟調であった中で、白菊は初市をピークに高値相場の取引を展開したが、中旬から落ち着きはじめた。小菊も前月比で入荷量減だが、弱保合であった。カーネーション、スイトピーとも需要に恵まれ高値基調の取引であった。バラは供給過多のため取引は軟調だが、上物は高値の取引に終始した。

「鉢物類」

毎年、1月は年末の買い疲れから荷動きが悪くなるが、春物の入荷が遅れているため品不足が生じ、全般的には高値の取引が続いた。とりわけ、観葉物は初市早々から強気買いが目立った。また、鉢物類にも「成人の日」の需要の引き合いがみられた。出荷・需要の最盛期に入ったポリアンタは高値相場が月を通して続いた。オブコニカも最盛期に入ったが、良品が少ない割には高値の取引であった。

シンビジュームは出荷時期も終わりになり、低調な取引であった。アザレアの取引は月前半堅調、月後半軟調の相場であった。

2月

「切花類」

月間を通して順調な入荷状態が続き、とりわけ洋花類は入荷量が多く、活発な取引を展開した。相場はほぼ保合であったが、月後半から節句需要の高まりにつれ、黄色系統、桃色系統に人気が集まった。切枝は大物の入荷がみられたことにより高値相場で推移したほか、節句需要で花桃の買いが目立った。輪菊は、前月に比べ入荷量減となったが、活発な取引を展開した。特に白菊は、業務需要にも支えられ高値基調の取引となった。カーネーション、バラとも需要に恵まれ強保合となった。フリージアは後半に入り節句絡みで高値基調の取引となった。

「鉢物類」

天候の影響によりらん鉢の入荷量は前月を下回ったが、全体では観賞類を中心に順調な入荷状況であった。バレンタイン・節句等の需要があるものの、大きな需要差がみられた。相場は全体的にみて、前半堅調、後半弱保合であった。ポリアンタは、前月に比べ入荷量減となったが、高値安定となった。オブコニカも、前月に比べ入荷量減となったが、例年と比較すると活発な取引となっている。サイネリアは、入荷量増となったが、堅実な取引であった。アザレアは、入荷量減となったが價格的に相場が下向き状態で推移し、ポトスは高値安定の取引となっている。

3月

「切花類」

洋花は、週末の結婚需要で堅調に始まり、中・下旬とも卒業式需要により活発な取引となった。キク類は後半の彼岸期に上げ、小菊は沖繩産も出回った。らん類は、結婚式需要の白いデンファレが供給減となった。かすみ草類は和歌山、高知等、大型産地から安定した入荷があり、順調な取引となった。

「鉢物類」

天候不順のため、草花鉢の入荷が少なかったが、中・下旬の結婚式需要に支えられ、プリムラ類、サイネリア類が堅調に推移した。洋らん類は引き続き入荷が順調で、フェレノプシス類を中心に順調に推移した。小鉢は、アザレアを中心に卒業式需要にも支えられ順調に推移した。

4月

「切花類」

市場への直送の率が高まり、全国的に産地が広がったことなどによ

り、天候不順による入荷減などの現象が少なくなり、白菊を中心とした業務需要に支えられ堅調な取引となった。洋花類は、月末からの「母の日」需要の関係から順調に始まったが、月末は大型連休の影響を受け、まちまちの商いとなった。カーネーションは、「母の日」需要が月末に始まり、花しょうぶも同様の動きとなった。バラは、週末の結婚式需要を中心とした商いだったが、入荷が順調であったため安定した取引となった。

「鉢物類」

全般的に好調な取引となった。特にリース用向けの大鉢、中鉢が需要急増のために主産地の鹿児島、愛知、静岡が品薄状態となった。ポトス、ヤシ類、ドラセナ類等の供給不足が目立った。らん鉢は、ファレノプシスの生産が3月に続いて多く、相場の低迷が続いた。デンファレは、入荷が少なく高値が続いた。観葉は大鉢、中鉢、小鉢とよく売れた。例年のことではあるが、ポトスの7寸、4寸が緊迫状態となった。また、マッサンゲアーナの尺鉢が半分以上の注文となった。ベンジャミンは、順調な取引となりゼラニウム4寸物が多く出回った。4月上旬は、需要と供給のバランスが安定し、中旬から下旬は、入荷増に伴い相場を落とした。

5月

「切花類」

前半、連休の影響が大きく白菊は業務需要に支えられ、花しょうぶ、カーネーションは需要期に活発な動きを見せ、洋花全体も影響を受けて活発な動きであった。後半、カーネーションは赤フランシスコを中心に下げが大きかった。バラは、業務需要中心の動きであったが、暖地物、高冷地物とも弱かった。菊は、白菊を中心に品薄高、カーネーションは「母の日」は国内、外国産とも入荷は順調であった。輸入デンファレはタイの気象状態が悪く品薄により高値であった。ジャクヤクの入荷は順調であった。

「鉢物類」

全体的に堅調な取引であった。しかし、カーネーションは「母の日」の需要に伴い、買気強く値段も高い取引となった。ユッカの尺鉢、7寸共に不足気味でマッサンゲアーナも大鉢、中鉢共に注文取引が多かった。先月に続きリースものは堅調であった。ゼラニウムは増産のため弱めで推移し、インパチェンスの苗物は安かった。

6月

「切花類」

暖地物から高冷地物へと産地が変わる中、後半の悪天候に影響され、価格が低迷した。週末のブライダル需要の洋花、上位等級の輪菊を中心とした展開だった。気温の上昇と共に事故品の率が高くなり、かすみ草、トルコキキョウなどの検品が必要であった。輪菊は、上位

等級を中心に展開し、バラ、カーネーションは前半は高冷地物が入荷が強く、後半は気温の上昇により弱めで推移した。くじゃく草は、入荷も多く引き合いも強かった。

「鉢物類」

中元向け商品があまり冴えない動きをここ数年しているが、今年も同様で商品にも多少マンネリ気味なところもある。鉢花は、特定商品以外は天候にかなり左右され、幅のある動きをした。観葉では、やはりリース向け商品は強く、入荷量、単価とも前年の月対比を上回っていた。マッサンゲアーナは入荷量、価格ともに堅調であった。ハイビスカスは価格の伸びがなく、ゼラニウムは軟調ムードに終始した。ポトスは尺鉢、中小鉢に人気集中し、特にリースとしての動きが多い。

7月

「切花類」

盆需要に支えられ全般的に好調な取引が行われたが、東北、北海道産のものは悪天候の影響を受け、スターチス類、宿根かすみ草、トルコキキョウなどに品質の低下が目立った。また、バラ、カーネーション、スプレー菊、シンビジウム等の輸入花の取引が多くなった。輪菊は上位等級は安定し、黄色、赤系は品薄なことと盆需要が強くなり活発な取引であった。小菊は入荷、取引とも順調に推移し、ユリ類ではカサブランカ等の引き合いが強かった。また、グラジオラスの紫系も強かった。カーネーションは入荷が潤沢で引き合いは弱かった。

「鉢物類」

圧倒的に観葉植物が中心で鉢花、苗物は価格、数量ともに低迷した。中でもほおずき、朝顔は比較的引き合いが多く7割は予約取引となった。観葉物はスパティフィラム、アンズリウム等の花物(中元用)に人気集中した。らん鉢においては、ファレノプシスは前半強含みであったが、後半は軟調となった。観賞樹ではブドウ、キウイに人気集中した。マッサンゲアーナは7月に入ると若干の弱含みを見せ始めた。ハイビスカスは思ったより売れが悪く、例年より入荷量も減少した。日々草、ゼラニウム等の花鉢は全般的に弱く、それが7月いっぱい続いた。ポトスは小、中、大とも堅調ムードで推移した。

8月

「切花類」

月遅れの盆需要に支えられ、全般的に好調な取引となった。輪菊、りんどう、鉄砲ゆり等仏花を中心に取引が展開された。しかし、8月中旬の連休の合間に関西の4連休の影響もあり、低調な取引となった。輪菊の白は業務需要に支えられ、堅調に推移した。色物は、前半は

業務需要に支えられ好調な取引であったが、後半はやや低調に終わった。バラは白系を中心とした展開で、入荷量も少なく低調な取引となった。カーネーションは、スプレーを中心とした取引で安定していた。ケイトウは神奈川、千葉物を中心とした取引であった。

「鉢物類」

観葉植物は大鉢を除き、リース向け、売店、商品共に苦しい商いとなった。鉢花は前半は、かなり苦戦したが後半は、秋の商品の菊類、りんどう、カラコエなどの入荷量が増えるに従って、相場も徐々に回復して来た。らん類は例年に比べると多少苦戦気味であった。マッサンゲアーナは中鉢系は軟調であったが、大鉢は無難な取引となった。ハイビスカスは、品種によって価格に幅があったが、主に大輪系に人気集中した。ポトスは大鉢以外は軟調で、菊類は後半からの商いになったが、全般的に堅調な取引であった。

9月

「切花類」

輪菊は彼岸需要が始まる中旬までは、業務需用用の白が中心であったが、下旬に至り品薄から引き合いが強くなり、小菊も同様であった。また、台風、長雨のため全般的に品質の低下がみられ、価格にも影響があった。カーネーション、バラは週末の宴会需要に支えられ、高冷地物を中心に、活発に取引を展開したが、後半は悪天候のため品質が低下した。かすみ草は北海道、東北中心の入荷であったが、引き合いが強くなり好調であった。

「鉢物類」

天候不順により前半は弱含みで推移したが、後半は天候にかかわらず価格を戻し、活発な取引となった。特にピラカンサ、りんどうなどが高値を保った。観葉物ではポトスが小鉢、大鉢ともに弱含みで推移した。逆にオカメ、アオドラなどが価格を上げて来た。マッサンゲアーナは、中・大鉢とも日によってかなり価格に幅があった。セントポーリアは、前半少し苦戦したが後半はもちなおした。

10月

「切花類」

本格的な婚礼シーズンを迎え、洋花は需要が週末に集中し、イベントや文化活動と相俟って、好調な取引が展開された。また、高冷地から暖地へと主産地が変わるこの時期、台風の影響で入荷が滞る日があった。白輪菊は、主産地の愛知県で「精霊」から「秀芳の力」に変わり、業務需要に対応した。バラ、カーネーションも入荷は順調であったが9月期の長雨が影響し、日照不足による品質の低下が目立ち、特にスターチス類は著しかった。

「鉢物類」

ブルムラ類のポアラン、ジュリアンなどが後半に入り入荷が増えてかなり堅調に推移した。ポインセチアも後半に入ってかなりの高値をつけた。シクラメンは、天候不順により入荷の遅れが懸念された

が、東北方面の入荷が順調であったため市況は好調であった。観葉物はリース向け商品は堅調であったが、吊り鉢類は弱含みであった。

11月

「切花類」

天候が安定した11月は文化活動も活発になるにつれて、一般消費も伸びた。宴会需要にも支えられて、週末中心の相場となり引き合った。菊は業務用需要が中心となり順調に推移した。洋花の入荷は潤沢であったが、かすみ草は産地転換期に当たり、業務需要が多い割りには入荷が少なく、高値で推移した。白菊は業務用が中心であり黄・赤色系統は品薄により引き合いが強かった。バラ、カーネーションは、宴会需要及び一般消費の伸びにより、活発な取引となった。フリージアは輸入物及び国産促成品が入荷し、人気のうちに取引された。

「鉢物類」

洋ラン(シンビジウム)は9月・10月の長雨により、出荷が遅くなり12月に荷が集中した。観葉は、全般的に入荷が減り始め、価格面でも弱含みとなった。観賞樹はクレストの入荷が急増し、価格は弱含みで推移した。苗物ではパンジーの引き合いが多く、品揃えに苦労した。マッサンゲアーナ、ポトスは耐寒性に欠けているため、11月から年末に欠けては人気急落した。ユッカは年末から年明けにかけて人気集中した。

12月

「切花類」

クリスマス、年末と最大の需要期を迎え台風の影響が懸念されたが入荷量が潤沢で引き合いも強く好調な取引であった。だが、暖冬の影響から、単価の面で伸び悩む品目もみられた。クリスマスは20日、23日の両日が入荷量のピークで、年末は23日、25日が入荷量のピークであった。カーネーションは長野産が終わりになり、暖地物は入荷薄となり高値で推移した。チューリップは暖冬の影響から価格が伸び悩んだ。

「鉢物類」

長雨と日照不足が入荷に多少影響したが、市況面においては安定した値動きを展開した。内容としては花鉢、らん鉢が主体で、苗物(パンジー、葉ぼたん)の入荷が少なく、高値で推移した。シクラメンは7号鉢が減少し、良品が少なく6号、5号鉢が増えた。特に5号鉢に良品がみられた。シンビジウムは12月に入荷が集中し、単価面で若干弱含みの展開となった。ポインセチアは良品が多く、市況も好調であった。

※大田市場の開場が平成2年9月で、2年中の実績が4カ月あまりの数値であるため、3年中の実績と完全な比較にならないことに留意願います。